

令和6年度 栃木県立矢板東高等学校附属中学校 学校評価シート



教育目標 高い志を抱き、次代を力強く担うリーダーの育成

本年度の重点目標

- 1 深い教養、高い学力の育成（学力の向上）
- 2 他者を思いやる心、社会貢献意欲の育成（人間性の育成）
- 3 心身の力強さと健やかさの育成（体力（耐力）の増進）
- 4 魅力ある学校づくりの推進（地域との連携強化）

達成度

- A 達成・満足できた（80%以上）
 B ほぼ達成・満足できた（60%以上～80%未満）
 C 十分とは言えない（40%以上～60%未満）
 D 達成できなかった（40%未満）

学 校 自 己 評 価

現状と学校評価実施計画

達成状況と改善策

No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・多くの生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得している。今後も、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行い、生徒の学力や意欲の向上を図る。	(1) 教員の授業力の向上 (2) 生徒の学習意欲と学力の向上	①主体的・対話的で深い学びを実現し、生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ②中高教員の授業の相互乗り入れと研究授業を実施する。	①生徒・保護者アンケートの肯定的な回答の割合 ②研修機会の設定と教員アンケートの肯定的な回答の割合	①生徒の90%、保護者の80%が肯定的な回答をしている。 ②研修を10回実施し教員の授業力向上を図った。	A B	引き続き教員研修の時間を確保し、授業力の向上に努める。 フォーサイト手帳や今未来手帳を活用し、計画的に学習するための支援を充実させる。
2	・中学3年生が中心となり、異年齢集団の活動による主体的な生徒会活動が行われている。 ・ジェネリックスキルを意識した振り返りやキャリアパスポートを適切に活用し、生徒が自己の変容や成長を実感できるようにする。	(1) 中高一貫教育校のメリットを生かした活動の推進 (2) 進路指導（キャリア教育）の充実	①学校行事において、異年齢集団による活動が効果的に実施できるよう、準備、実施、振り返りの各場面で中高の連携をより推進する。 ②進路学習を計画的に行うとともに、高校生による進路講話や体験授業等の充実を図る。 ③総合的な学習の時間を中心に、キャリア教育の視点から身に付けさせたい力の共通理解を図る。	①生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 ②生徒アンケートの肯定的な回答の割合 ③教員アンケートの肯定的な回答の割合	①65%の生徒、保護者が肯定的な回答をしている。 ②生徒の75%が肯定的な回答をしている。 ③すべての教員が進路学習やキャリア教育を意識して指導した。	B B	引き続き学校行事等の準備、実施、振り返りの各場面で中高の連携をより推進する。 総合的な学習の時間の内容について改善を図るとともに、ジェネリックスキルへの意識をさらに高める。
3	・部活動や学級活動、生徒会活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ・自己肯定感がもてず、人間関係を上手くつづけない生徒もいる。集団づくり等を通して人間性の育成を図る。	(1) 部活動の適正化と特別活動の活性化 (2) 生徒の健全な精神の育成	①「部活動の方針」等に基づいた適正な部活動の運営を行うとともに、生徒の主体的な活動を推進する。 ②学級活動や生徒会活動等を充実させることで、生徒の心身の健やかさと活力を育む。 ③「ふれあいのある人間関係」と「ルールの確保」の両方がある集団づくりを進める。 ④「居場所づくり」「絆づくり」を意識した学年、学級づくりを進める。教育相談体制のさらなる充実を図り、いじめの未然防止や生徒の悩み等の早期発見・対応に努める。	①生徒・教員アンケートの肯定的な回答の割合 ②生徒アンケートの肯定的な回答の割合 ③生徒・保護者アンケートの肯定的な回答の割合と教育相談アンケート結果	①生徒の70%、すべての教員が肯定的な回答をしている。 ②90%以上が肯定的な回答をしている。 ③自己肯定感をもっている生徒が68%となっている。 ④生徒の70%、保護者の65%が肯定的な回答をしている。	B B	引き続き、部活動や学級活動、生徒会活動での主体的な活動を充実させる。 集団を高めながら人間関係づくりを計画的に行うとともに、教育相談や保護者との連携の充実を図る。
4	・教員は生徒と関わる時間を確保しているが、時間外の勤務時間が少ない。引き続き教員の業務改善に努める必要がある。	(1) 教員の「働き方改革」の推進	①より効果的な教育活動を行うために、担当する業務について、見直しや改善を図る。 ②「チーム矢束」として教職員間のコミュニケーションや協働を大切にする。報告・連絡・相談を大切にしながら教育活動を行っている。	①教員アンケートの肯定的な回答の割合 ②教員アンケートの肯定的な回答の割合	①すべての教員が肯定的な回答をしている。 ②90%以上の教員が肯定的な回答をしている。	A	教職員間のコミュニケーションや協働、報告・連絡・相談を大切にしながら教育活動を行っている。

学校関係者評価

実施日:令和7年2月17日

学校関係者からの評価・意見等

- (1) すべての項目でAまたはBとなっており、充実した教育ができていることを確認した。
 (2) 6年間を見据えた学習や行事を充実させることを通じて、学業はもちろん、社会性やリーダーシップ、協調性なども育んでほしい。
 (3) スマートフォンの使用を通じて、デジタルリテラシーや情報リテラシーのスキルを向上させることについても考えてみてはどうか。デジタル技術を活用することで、将来のキャリアに必要なスキルを身に付けたり、適切な使用ルールやマナーを学ぶ機会になったりするのではないかな。また、教職員のデジタルスキルの向上も現代の教育現場には必要である。
 (4) 生徒や職員に比べて保護者の肯定的な回答の割合が少ない。保護者との対話の場面をできるだけ多く設定してほしい。
 (5) 不登校の未然防止も含めて、「居場所づくり」「絆づくり」を意識した学年、学級づくりをさらに進めてほしい。
 (6) 生徒に任せられる部分を増やすなど、生徒の自主性を生かす場面を増やしたことはよかった。

・HPや学校パンフレットを中心に情報発信を行っている。保護者や地域社会に向けた情報発信を充実させる必要がある。	(2)学校広報活動と情報発信の推進	①学校パンフレット、HP等の内容の充実を図る。 ②保護者や地域社会のニーズにあった情報を提供する。	①保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 ②保護者アンケートの肯定的な内容の割合	①教員の60%、保護者の70%以上が肯定的な回答をしている。 ②保護者の65%以上が肯定的な回答をしている。	B	外部の閲覧者や保護者を意識して、HP等の内容を改善する	(7)市町等の様々なイベントでの生徒の活躍が耳に入ってきている。HP等を利用し、その活躍も発信してほしい。
---	-------------------	--	---	---	---	-----------------------------	---